

日吉ダムの濁りの状況について (平成30年9月7日)

日吉ダムでは、台風20号に続き、台風21号による出水に伴い再び濁水が貯水池に流入しました。

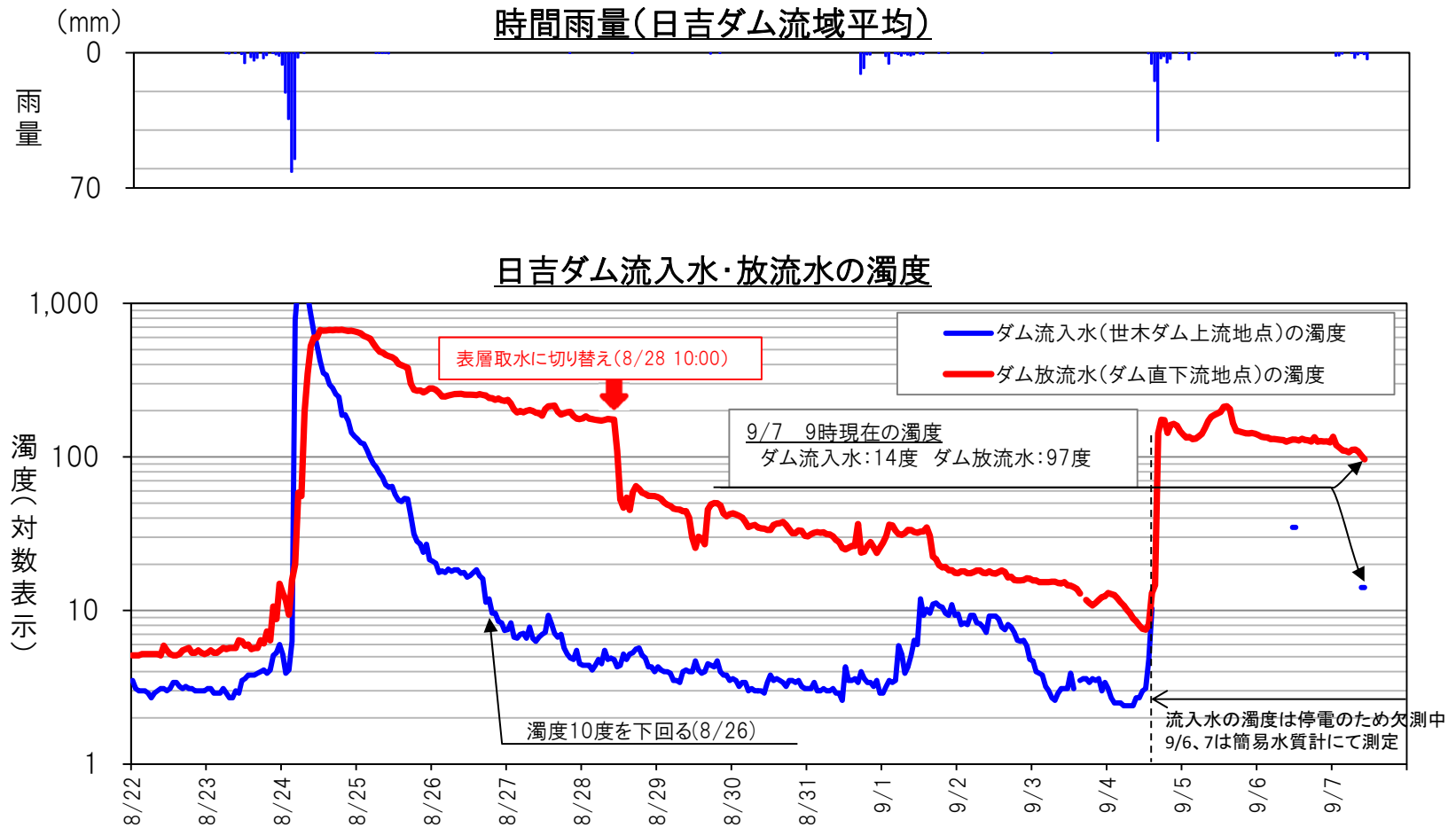
台風20号に伴うダムからの濁水放流は一時解消しましたが、台風21号(最大流入量220m³/S)により、9月7日現在、貯水池に流入する水の濁り、貯水池及びダムから放流する水の濁りが続いている状況です。

流入水、貯水池及びダム放流水の濁りは、出水による新たな濁水の流入がなければ、時間の経過とともに低減していくものと考えられます。

濁りの状況については、今後も監視を続けていきます。

平成30年9月7日(9時現在)までの状況

台風20号前の8月22日から台風21号後の9月7日までの降雨量、ダム流入水とダム放流水の濁りの状況は下図のとおりです。



(備考)

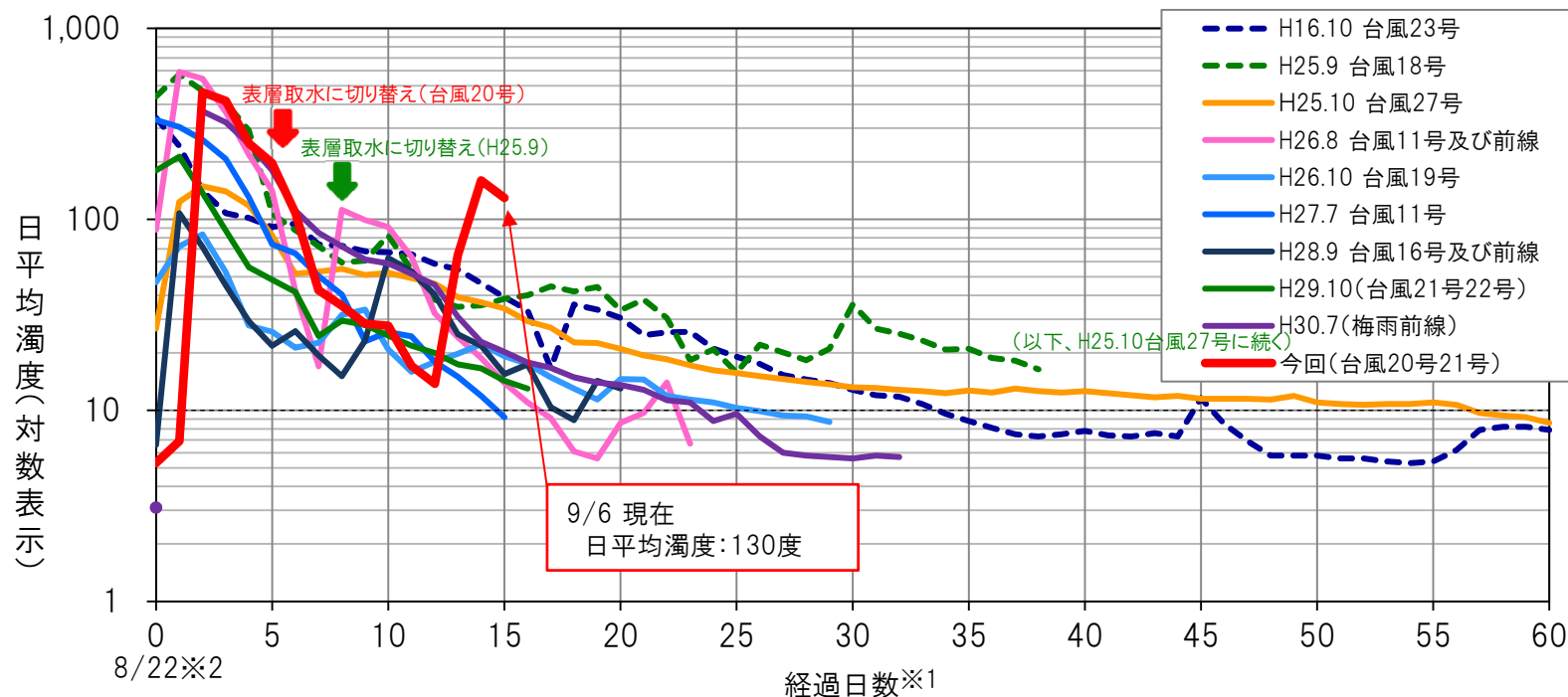
- ・「濁度」とは、水の濁りを表す指標です。「濁度1度」とは、精製水1リットルに“カオリン”という粘土鉱物を1ミリグラム溶かしたときと同じ程度の濁りです。
- ・濁りの目安として濁度が10度を超える場合を濁水としています。

ダム放流水(ダム直下流地点)の濁りの状況

—過去の出水との比較—

現在、ダムからの放流水は、選択取水設備により貯水池の底部から取水しています。
ダム放流水(ダム直下流地点)の日平均濁度は130度です。

今後、ダム放流水の濁りは、出水による新たな濁水の流入がなければ、出水前のレベルまで徐々に、低減していくものと考えられます。



※1 経過日数はダムへの流入量が最大に達した日からの経過日を示す。

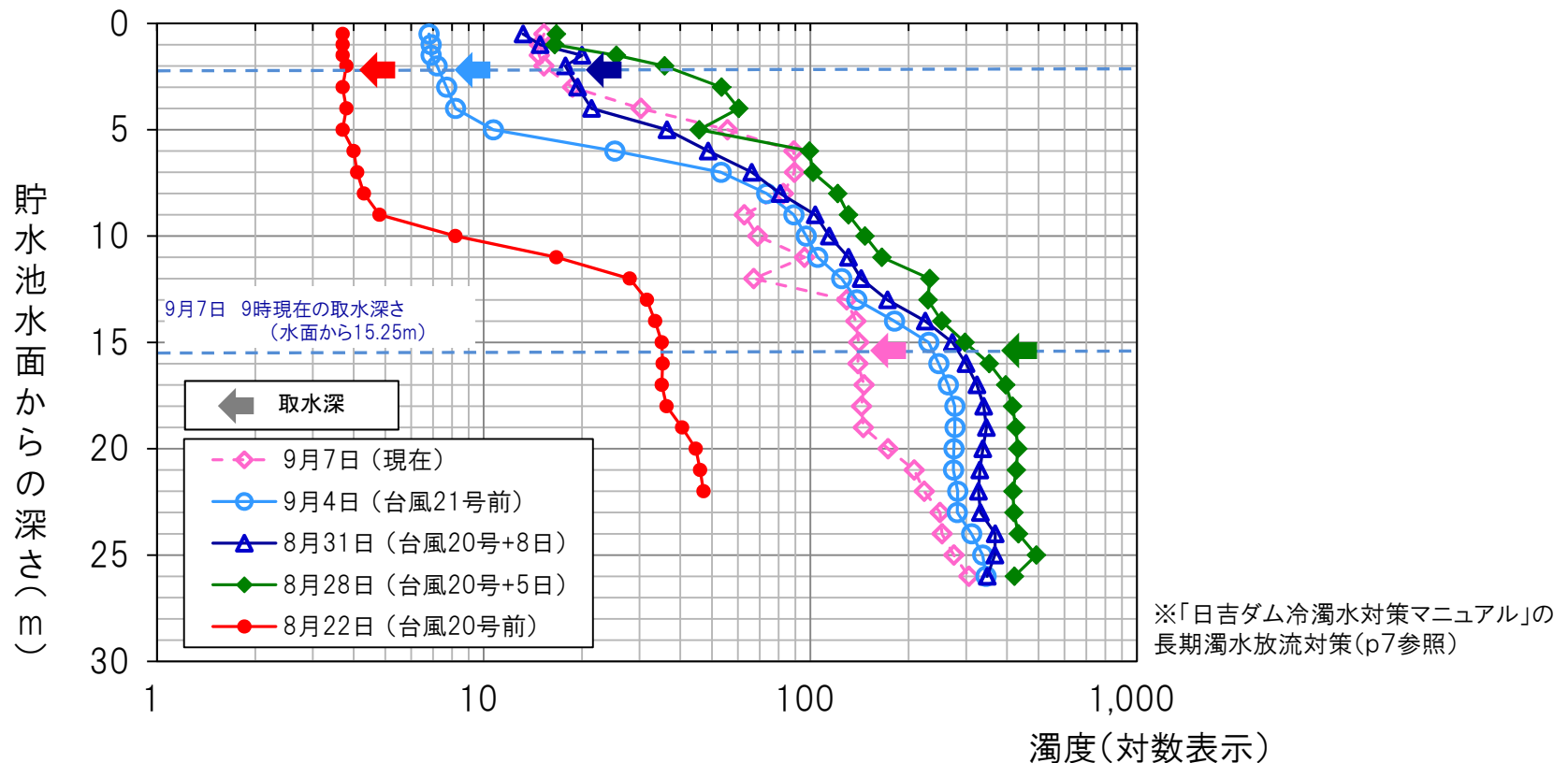
※2 日付は、今回のH30.8月(台風20号)出水の経過日に対応している

※3 日吉ダムでは長期濁水放流を「流入水が清澄になっても、ダム放流水が10度以上で、1週間以上継続する」と定義している。

ダム貯水池の濁りの状況

台風前の8月22日には、貯水池の浅い層から中間層まで10度以下、深い層では10度～50度の濁度で推移していましたが、台風20号に続き台風21号による出水に伴い、再び濁水が流入した為、濁りが継続しています。

日吉ダムでは、貯水池内を早くきれいにするため、底部取水、「高濁度水の優先放流※」を行っています。今後、流入水が清澄になれば、選択取水設備により表層取水をおこなっていきます。



ダム貯水池における水深毎の濁りの状況(9時値)

日吉ダム及び上下流の濁り状況(平成30年8月28日撮影)



④日吉ダム直下



③日吉ダム貯水池



②世木ダム直上・直下



①流入河川(日吉橋下流)



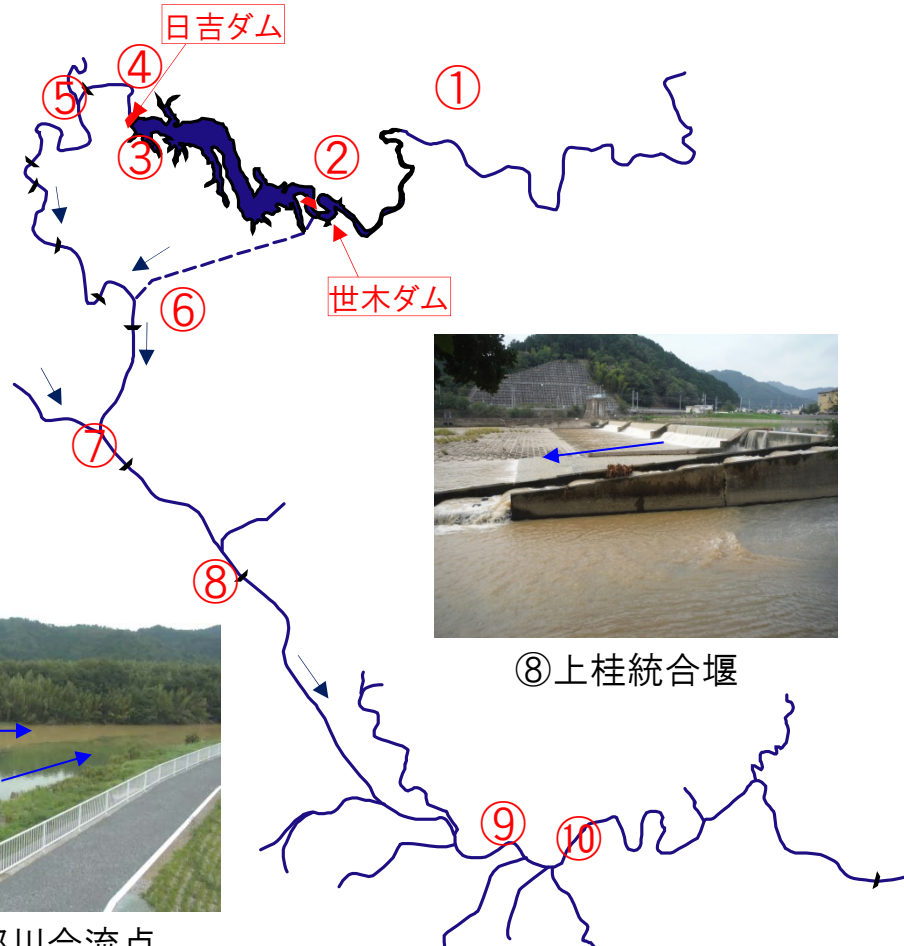
⑤田原川合流点



⑥新庄発電所放流口(停止中)



⑦園部川合流点



⑨保津橋上流



⑧上桂統合堰



⑩請田神社前

日吉ダム及び上下流の濁り状況(平成30年8月31日撮影)



④日吉ダム直下

濁度28度
水温25.7℃



③日吉ダム貯水池



②世木ダム直上・直下

濁度 2.9度
水温25.8℃



①流入河川(日吉橋下流)



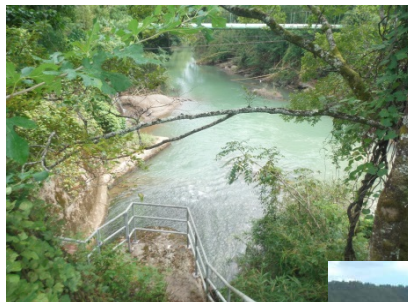
⑤田原川合流点

濁度45度 ※
水温25.4℃



⑨保津橋上流

濁度28度 ※
水温26.7℃



⑥新庄発電所
放流口(停止中)

濁度43度 ※
水温25.6℃



⑧上桂統合堰

濁度24度 ※
水温26.8℃



⑩請田神社前

濁度28度 ※
水温25.7℃



⑦園部川合流点

濁度37度 ※
水温25.9℃

※濁度及び水温は簡易水質計にて測定 (6/8)

日吉ダム及び上下流の濁り状況(平成30年9月6日撮影)



④日吉ダム直下

濁度130度
水温22.3℃



③日吉ダム貯水池



②世木ダム直上・直下

濁度35度 ※
水温20.8℃



①流入河川(日吉橋下流)



⑤田原川合流点

濁度141度 ※
水温22.3℃



⑨保津橋上流

濁度50度 ※
水温22.8℃



⑥新庄発電所
放流口(停止中)

濁度43度 ※
水温19.7℃



⑧上桂統合堰

濁度52度 ※
水温22.6℃



⑩請田神社前



⑦園部川合流点

濁度66度 ※
水温21.8℃

※濁度及び水温は簡易水質計にて測定 (7/8)

対応の状況

日吉ダムでは、学識経験者や地元自治体等(京都府、南丹市、大堰川漁業協同組合)で構成する「日吉ダム冷濁水対策検討会」を設置し、日吉ダムからの冷水放流及び長期濁水放流問題を議論し、平成28年に対応策をまとめた「日吉ダム冷濁水対策マニュアル」を策定しました。

長期濁水放流対策としては、以下の2点の運用を行います。

① 流入水の濁度が10度以上の場合

放流施設を活用した高濁度水の優先放流を行い、貯水池内を早くきれいにする。

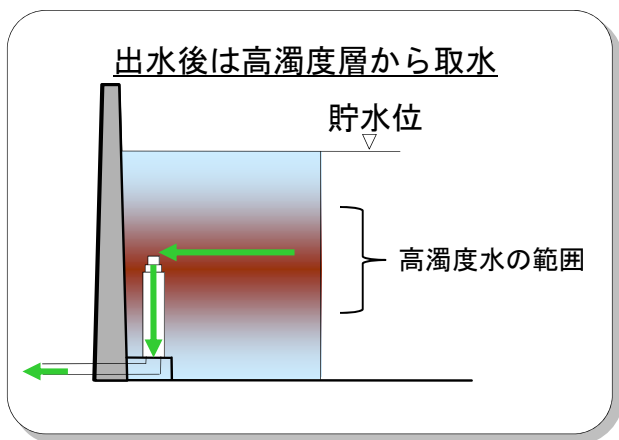
② 流入水の濁度が10度を下回った場合

日吉ダムに比べ早く濁度が低下する世木ダムの新庄発電所取水設備からの放流を「清水バイパス」として活用し、日吉ダムからの放流を可能な限り少なくする。

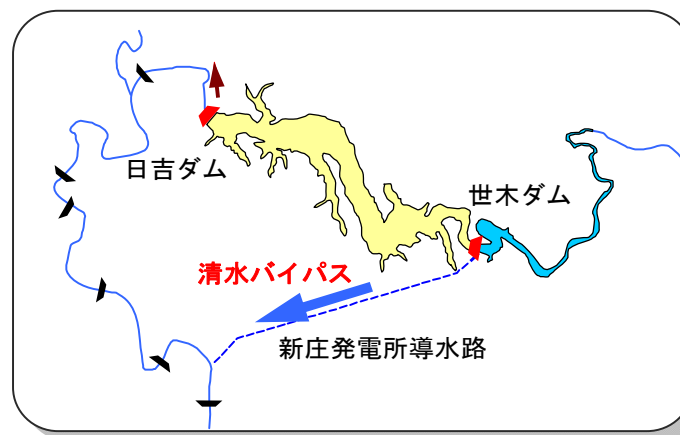
※ 9月1日に新庄発電所の設備更新工事が完了。

今後、取水設備からの放流を「清水バイパス」として活用する予定。

① 放流施設を活用した高濁度水の優先放流のイメージ図



② 新庄発電所活用による清水バイパス効果のイメージ図



「清水バイパス」とは、上流の河川から流れてくる水をダム貯水池に入る前に、直接ダム下流に放流するための設備です。日吉ダムに清水バイパス設備はありませんが、貯水池が濁った場合には、できるだけきれいな水を下流の河川に流すため、発電用の導水路を清水バイパスとして活用しています。